



書
評

内視鏡下鼻副鼻腔・頭蓋底手術 CT 読影と基本手技 [3DCT 画像データ DVD-ROM 付]

監修：伊藤壽一
編：中川隆之

A4・頁 236 2014 年 定価：本体 12,000 円＋税
[ISBN978-4-260-01972-9] 医学書院刊

＜書評者＞ 佐伯直勝（千葉大学教授・脳神経外科学）

経鼻内視鏡手術を行う脳神経外科医にとり有用な書

脳神経外科手術領域における内視鏡下経鼻手術は、従来の顕微鏡下経鼻下垂体手術をさらに発展させた洗練された方法として認められつつあり、従来拡大経蝶形骨洞手術として行われていた傍鞍部腫瘍への到達法から、さらに広がりをもった手術法も可能となった。そして内視鏡下経鼻手術は、正中病変では前頭蓋底から頭蓋・頸椎移行部、側方病変では海綿静脈洞、翼口蓋窩、側頭窩下、眼窩内病変に至るまで、頭蓋底疾患を広く扱える手術法として発展しつつある。欧米諸国では、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、脳神経外科をバックグラウンドとしたチーム医療が開きつつあり、日本においてもこの領域に特化した専門医グループの出現が待たれる。

一方で、髄液漏れ、血管損傷、脳神経麻痺などの内視鏡下経鼻手術に特有な合併症を起こさない工夫や、起こした際の対処法などを習熟しておかなければならず、習熟法の 1 つとしてキャダバートレーニングが有用であることは論をまたない。本書の編集者・執筆者である中川隆之氏は、京大の耳鼻咽喉科・頭頸部外科医の立場からキャダバートレーニングコースを開催

し、内視鏡下経鼻手術の安全な手技の普及に貢献してきた。本書で特徴的なのは、個々のキャダバーの 3DCT を術前に評価し、個別に手術手技、解剖をイメージしながら、段階を踏んで手術を行っていく方法で、実際の手術法に即した教科書としてまとめ上げられている点である。また本書は、初心者でも行えるわかりやすいプランニングと、安全かつシンプルな手術テクニックをコンセプトとしているとともに、基本的な手技から一歩進んで、頭蓋底手術についても同様のコンセプトで解説している。

本書は耳鼻咽喉科の医師により書かれているが、内視鏡下経鼻手術を行う脳神経外科医にとって参考となる基本手技と、より難度の高い領域への手術法を提供している。

今日の実臨床例においては、手間暇をかければかけるだけ、術前に質・量ともに豊富な画像情報を得ることができる。手術法に関する情報も、エキスパート手術の見学の機会、ビデオ、そして本書を含めた手術書など入手しやすい環境が整ってきた。それをいかに情報収集・整理して個々の症例に生かしていくかは、主治医である外科医の心構えいかんである。